北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報　第８号　（105～109）
Bulletin of the Northern Regions Lifelong Sports Research Center Hokusho University Vol. 8
2018年３月
March, 2018

ソフトテニス競技における地域密着型スポーツクラブの調査報告（Ⅱ）

A New Promotion of Soft Tennis in Community-based Sports Clubs（Ⅱ）

畠　山　孝　子

Takako　HATAKEYAMA

キーワード：ソフトテニス，北広島町，地域密着型スポーツクラブ，地域の力

Ⅰ．はじめに

本研究は，ソフトテニス競技における地域密着型スポーツクラブとしては，初の事例である「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」を対象とした調査の２回目の報告である。前回の報告では，一般財団法人どんぐり財団専務理事に聞き取りを行い，地域密着型スポーツクラブが北広島町に誕生した経緯をまとめた。北広島町にとってもチームにとっても，タイミングのよい出会いであったことが窺えた[1)]。また，地域密着型ソフトテニスクラブ誕生には，出会いから10数年の時間をかけて育んだ地域との強い絆が礎にあった[1)]。

さらに2016年３月には選手の北広島町移住と就職が完了した。チームは地域に生活基盤を置き，地域の支援を今まで以上に強く感じながら競技生活を送っている。そこで，２回目の調査は，チームが移住しておよそ１年が経過した2017年２月に実施した。

本報告では，前回の報告を踏まえ，地域密着型スポーツクラブの北広島町での支援活動の広がりを明らかにし，地域密着型スポーツクラブの地域振興の可能性と，これからのソフトテニスの発展の一つの方向性を考える資料としたい。

Ⅱ．「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」を支える人々

１．北広島町ふるさと夢プロジェクトへの聞き取りから

チームを町の立場から支援する北広島町教育委員会ふるさと夢プロジェクト係の関係者の話をまとめると以下の通りである。

町が支援を始めたのは2015年度からである。これまで，応援垂れ幕の庁舎設置やホームコートとなる豊平総合運動公園テニスコートの整備を行った。また，チームの移住に伴い選手の雇用と定住の斡旋を行った。チームの活動拠点が北広島町に移ってからは，これまで以上に町内での大会や講習会の開催が増加している。このようなイベントでは町が主催をし，運営は財団とチームが行っている。写真は北広島町で開催された講習会の様子である（写真１）。「チーム関係の催しが増えたことで，宿泊者が増加し，コート使用の頻度も増えている。その結果，町には予想を超える参加者が多数集まり，町はチームの知名度の高さを改めて知ることとなった」と言う。

地域住民に目を向けると，「チーが移住したことで地域ではざまざまな新しい活動が始まった。ソフトテニスを行う地元の子どもたちにとっては，日本トップのプレイを身近に見て一緒に練習する機会を得て大きな励みとなっている。これまでソフトテニスを知らなかった地域の人々もまた，選手が地域の中で働くことで応援することにも実感が湧いているという話も聞く」とのことである。チームの出場する大会開催地へは集団で応援に行くなど，試合の応援や日頃の選手とのふれあいは，地域の人々の生きがいになっていると言う。

2017年８月，公益法人スポーツ健康産業団体連合会は「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」設立に対して日本商工会議所スポーツ振興賞を贈った[2)]。しかし，町全体での認識はまだ低いとのことである。

町が現在行っているスポーツ関連の補助事業では，町の代表として出場する大会に対して，補助金を出している。この制度はチームが町民となる以前から，どの競技に対しても行っている事業である。チームに対しての支援の形は様々検討されているが，まだ具体化には至っていない。

町では，これまでのチームによる地域振興効果を活か

北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科

し，今後もチームと連携して地域振興策を進めたいと考えている。課題である施設の充実やふるさと納税の仕組みでの支援策などは2018年度事業としておこなう予定である。チームへの支援はこれまで主に豊平地区で行われていた。従って，他の３地域（千代田・大朝・芸北）にはチームの認知度は低い。これからは北広島町全体へチームの認知を図るよう広報を充実させたいと考えている。町全体への広報活動は始まったばかりである。

２．戸谷営農組織代表の聞き取りから

戸谷営農組織は北広島町に地域密着型スポーツクラブ「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」誕生の礎を作った組織の一つである。代表の方２名に話を聞いた。

(1) 始まりは日本一の田んぼ

チームと北広島町との交流は10数年前に始まる[1)]。当初は町によるテニスコートの提供，選手による町内での講習会の開催などが行われていた。戸谷営農組織とチームの繋がりは，一般財団法人どんぐり財団からの働きかけによる。チームへの支援は山間地域直接支払い事業のひとつ「都市との交流」に位置付け進められた。戸谷農営組織はチームに米を提供することから始まる。「日本一の田んぼ」である。チームは提供された田んぼの田植えや収穫を行うこともあった。戸谷地区は米作が中心の地域でこの地域では，長く小学校でお米を育て，収穫後は餅つきをする行事を行ってきた。この収穫祭にも選手が参加する機会が増え交流は広がっていき，戸谷営農組織はチームの強力な支援組織となっていった。

(2) 身近な存在―孫のように―

チームの北広島町への移住は戸谷営農組織にとって大きな喜びとなった。「このような発展の形は当初考えもしなかった。今は，選手が公民館など地域の生活の場所で働いくようになってより身近に感じている。そばにいることは以前とは全く違う，後援会活動も盛んになった。今はいつでも練習がみられる。気軽に声を掛けられる。」と代表の話からは喜びが伝わってくる。

チームが移住してからは，「自分たちの地域と深いかかわりのある選手の応援には力が入る。」と言う。地域の中学校も横断幕を作り応援するなど応援の輪は広がりを見せている。「全国からはたくさんの人が北広島に来くるようになり，地域の活性化が進んでいる」と言う。

「若い子なので事故・怪我に気を付けて，娯楽施設もない地域ではあるが，居心地の良い環境を作っていきたい」と考えている。

チームが北広島町と関わり持った時期から支援を続けてきた戸谷営農組織の人達にとっては，地域に共に暮らす存在になった選手を孫のように感じて応援している。

３．女性５人でチームを支援

北広島町にある支援団体の一つで，特に選手の食事生活を支援する女性５名による団体の代表に話を聞いた。

(1) 手作り成人式―集えば自然にとけこめる和やかさ―

2017年２月，北広島町で選手の成人式が行われた。選手と同世代の子どもを持つ豊平地域の女性が，成人を迎えた選手に振袖を着せてあげたいとの思いで企画した。メンバーは女性５人，地域の人々は「べっぴん５」と呼んでいる。振袖はメンバーが用意し，着付けや写真撮影は地域に移住した美容師やカフェ経営者が引き受けた。30人程度の集まりを予定していたが当日は50人以上の人が会場に詰めかけた。料理の材料はどれも身近にあるもの。どの料理も時間をかけてメンバーが手作りした。地域の一人ひとりが「チームのために何かしたい」との温かい思いのこもった手つくりの成人式となった。（写真２）この模様は中国新聞が伝えている。（写真３）会には，集えば自然にとけこめる和やかな雰囲気が流れていた。成人した選手は「地域の方々から元気をもらっている。これからも，（ソフトテニスを通して）北広島町を全国に伝えたい」「温かい応援に力をもらっている。誇りに思って頑張りたい」と思いを語った。

(2) チームとの出会い

「べっぴん５」とチームとの出会いは2015年に遡る。駅伝メンバーの母親として，駅伝関係者がチームの監督に講演を依頼，監督の言葉に中学生も保護者も励まされたと言う。そこからチームとの繋がりが始まった。

これまで手作りの料理で選手や関係者をもてなしてきた。監督や関係者の依頼で行うものや，メンバーの好意で行われるもの様々である。山菜パーティ―を開き，山菜の天ぷらやたけのこご飯を食べてもらった。チームの引っ越しの際にはお昼ご飯作った。「引っ越しの手伝いは20人くらいをお願いしていたが60人集まり，食事の用意たいへんだった」とふり返る。130人の合宿でバーベキューパーティーの手伝いもした。不定期ではあるが選手に夕食を届けることもある。「選手には安心なもので，温かいものを食べてほしい。わが子も外でお世話になっているので恩返しの気持ちもある。」「娘たち（選手たち）をおなか一杯にさせたい。」「つらい時もおなか一杯になれば乗りきれる」と語っている。選手からの「今度は何が食べたいです。おいしかったです。どう作るのですかとの言葉がうれしい」と言う。

(3) これからの活動―「繋がりの繋がりの繋がり」―

「これからも変わらず，周りを巻き込んで，繋がりの繋がりの繋がりを図り，しっかりとしたかけがいのない関係を築いていきたい。これからも一人ひとりの力で何かできることの輪が広がっていけばよい」と今後の方向性を語っていた。

女性５人の活動は，厳しい大会や練習の後に，選手の心も体も癒してくれる環境をつくり，家族のような存在として選手を支えている。

この他にも地域の支援は様々である。自宅で取れた野菜を届ける人，卵を提供してくれる養鶏農家。このような日常の繋がりに，選手は，地域が育ててくれている北広島町の地域の力を強く感じながら日々を送っていると思われる。

４．地域の力，自分たち一人一人にできること

チームのホームグランドである豊平運動公園内にある体育館で汗を流すＫさんは，チームが北広島町に移住して，身近な存在となったチームを見守っている。Ｋさんの話を以下にまとめた。

(1) Ｋさんの支援

Ｋさんがチームのために何かできないかと考えるようになったのは，一般財団法人どんぐり財団専務理事の地域のために働く姿に触れたことがきっかけである。地域以外から来た人が，その知識や人脈を生かして，地域の発展に力を尽くしてくれることに感謝し，地域の人間として自分にも何かできることはないかと考えていた。また，Ｋさん自身の人生を振り返り「人との出会いに助けられてきて，今日がある」との感謝の気持ちが強くあり，いつも，自分にできることはないかと考えていたと言う。

現在，チームの応援旗（写真４）や応援の手ぬぐいなどを自分のデザインで作成し，チームを支援している。大会の際には地域からの応援団が集合する場所の目印にも使え，体育館でも使え，外では持って歩けるように工夫して作成している。

(2) 地域に根付き始めたプロではないスポーツ

この地域の特に農業従事者は一生働いて人生を終えると考える人が多いＫさんは言う。「若い人とから元気をもらい，刺激を受けて活かしていかなければ（地域密着型スポーツクラブがある）このような恵まれた身近な環境で，ソフトテニスに触れないことはマイナスである」とも言う。

「チームは志の高さを感じることのできるテニスを見せてくれる。みんなの理解の輪を広げ，試合をみる人ができて，大会を見に行く動きから，練習を見に来るようになる形が作られらたなら，このスポ－ツは地域密着型として成功と言える。」とＫさんは語る。

プロスポーツではないソフトテニスを，人に感動を与えることのできるスポーツへとどこまで高めていくかはチームの重要な課題であると思われる。「地域の支援にこたえることができるような，我々が（地域の皆さまに）感動を伝えることのできる試合をしたい」と語った選手の言葉が思い出される。

次に，Ｋさんが考えていることは，北広島町全体にチームの存在を知らせることである。グランドゴルフのメンバーには手ぬぐいを配りチームへの理解を促そうとしている。北広島町はグランドゴルフが盛んである。練習場所も多く，大会も数多く開催されている。町内の愛好者はおよそ400人いる。近隣町村にも声をかけ250人規模の大会が開かれている。Ｋさんの大会参加は年間40回程である。この機会を活かし，グランドゴルフの愛好者にチームを知ってもらいたいと考えている。

(3) この時代，この地域の力

Ｋさんの奥さんが有志と立ち上げた食堂「マザーズ」もまたチームとの繋がりがある。食堂を始めたのは１年前である。チームの移住のタイミングとマザーズの開店の時期が一致した。どんぐり財団専務理事からの声かけで，お弁当を選手に作っている。

「マザーズ」をはじめたきっかけは，「地域の高齢化が進み，近くの人と触れ合う機会の少なくなった，互に素通りする時代に立ち寄る場所を作りたい。近くに店が少なくなり，お惣菜を買う場所がない，コンビニがないこの地域に，地域の食材を生かした食事を提供したい」との思いからであると言う。

「昔は人がいてみんなで協力して生活してきたが，今は，人がいなくなって，このような場所が必要になってきた。」とＫさんは語っている。

北広島町も時代ともに変わりゆく中で，「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」は，地域の一人一人の力を引き出す存在になり始めたように思う。

Ⅲ．まとめ

チームが北広島町に移住しおよそ１年が経過した。地域にはチームを支える新たな活動が広がりを見せている。今回は，北広島町教育委員会，戸谷営農組織代表，チームの母のような存在である女性５人の代表者，地域で応援するＫさんにそれぞれ話しを聞いた。

選手の移住によって北広島町にはこれまで以上にチームによる地域貢献は進んでいる。そして，大会や講習会の開催によって多くのソフトテニス関係者が北広島町を訪れるようになった。ソフトテニス界においても北広島町は多くの関係者の知るところとなった。これに対して北広島町による支援は始まったばかりであるが，将来的に町とチームの連携で今後益々地域振興が進んでいくと考えられる。

支地域密着型スポーツクラブ「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」誕生の礎を作った戸谷営農組織は，移住により身近な存在となったチームに対して，孫への慈しみの思いで，選手の支援活動を更に広げていた。

母親のように選手を支える女性５人の取り組みは，手づくりの食事の提供，手作りの行事の開催と心のこもった支援であった。特に，選手の成人式は地域を挙げての行事となり，地域の力を象徴する催しとなった。

チームを見守るＫさんは「試合をみるひとができて，大会を見に行く動きから，練習を見に来るような形が作られたらこの地域密着型は成功」と，地域に密着したチームの将来の姿を語っていた。

2017年，日本初の地域密着型スポーツクラブ「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」設立に対して，日本商工会議所奨励賞が贈られた。受賞の理由には全国から合宿や大会，講習会に多くの関係者が集まること，チームの関係者が地域に移住・就職し人材の確保につながったこと，住民の健康づくりに貢献したこと等を挙げている。そして最後に「選手の活躍する姿を地域住民が温かく見守っていく仕組みが完成した。」[4]と結んでいる。まさに，北広島町という地域のもつ力と，チームの力が繋がって初めて作りあげらあれた仕組みと言える。この受賞からもチームの地域貢献が更に進み，北広島町が，日本のソフトテニス発展のひとつの拠点になっていくことは間違いないと思われる。

今後も調査を継続し、地域密着型スポーツクラブの地域振興の可能性と、これからのソフトテニスの発展の方向性が明らかになるよう研究を進めていきたと考えている。

写真１　千代田総合運動公園で開催された講習会

2017年（平成29年）2月10日（金曜日）　地域（24）

広島都市圏

ニュースや話題など身近な情報をお寄せください

北広島のソフトテニスクラブ

「どんぐり」2選手祝成人

豊平の住民「まるで娘」振り袖用意

振り袖を着た高橋さん（左端）と田辺さん（左から2人目）を祝う甲斐さん（同5人目）たち

北広島町を拠点にするソフトテニスクラブチーム「どんぐり北広島」の選手2人の成人式が8日夜、同町都志見であった。選手と同世代の子がいる豊平地域の女性たちが「振り袖を着せてあげたい」と企画。住民たち約50人が祝った。

岩手県奥州市出身の高橋乃綾さん(20)と新潟市出身の田辺恵理さん(20)。1月は東京や大阪で大会を控えていたため、出身地や同町の成人式に出席できなかった。事情を聞いた甲斐徳子さん(47)たち女性5人が中本裕二監督に成人式を提案。大会で優勝したチームの祝賀会に合わせ開くことにした。

甲斐さんたちが、自身の娘が着た振り袖を2着用意。同地域に移住してきた美容師夫妻やカフェ店主が着付けやヘアメーク、写真撮影を引き受けた。

式は、練習拠点近くの都志見生活改善センターで開催。2人は、住民やチームメートの拍手で迎えられ、「おめでとう」の声に笑顔で応えた。高橋さんは「昨年より良い成績を残して、みなさんに喜んでもらいたい」。田辺さんは「温かい応援に力をもらっている。誇りに思って頑張りたい」と抱負を語った。

監督や選手は昨春、広島市内から同町に転居。選手は町内で働きながら、練習する。町民は食事を作ったり、試合の応援に行ったりして支えている。甲斐さんは「選手は、みんな娘のような存在。喜ぶ姿を見ることができてうれしい」と話していた。（山田太一）

写真２　中国新聞が伝えた成人式の記事[3]

写真３　選手の成人式と祝賀会[3]

写真４　Ｋさんデザインのどん北応援旗[3]

付　記

本研究は，平成28年度北方圏生涯スポーツ研究センター・センター選定事業として実施した。

文　献

1）畠山孝子：ソフトテニス競技における地域密着型スポーツクラブの調査報告（Ⅰ）．北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報：７，181-183，2016.
2）一般財団法人「どんぐり財団」ホームページ参照：http://kh-donguri.or.jp/，2017.11.24参照
3）地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」ホームページ：http://donguri-zaidan.sakura.ne.jp/wp，2017.11.24参照
4）公益社団法人 スポーツ健康産業団体連合会ホームページhttp://www.jsif.or.jp/others/pdf/sportec2017prize1.pdf，2017.11.24参照